

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
毎月1回1日発行  
定価1部15円  
印刷所 田辺印刷株式会社  
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
発行所 社団法人 千曲会  
長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
振替 長野 6243・東京43341  
電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

## 新入生諸君を迎える

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

入学試験の難関をパスして本学部に入學された諸君に心からおめでとうを言いたい。このことは本学部にとってこの上ない喜びであるが、また父兄の方々もさぞお喜びのことと推察する。諸君はこれから4年間の最後の学生生活をこの大学で送るのであるが、このスタートの時にあたって、私は大学とはどういう所か、この学部はどのような大学であるか、大学生活はどのように送るべきかなどについて私の見解をお話しして、諸君ができるだけ大学生活を有意義に送ってもらう参考になりたいと思う。世人はややもすると大学を社会に出る時の就職条件をよくするとか、社会的地位をあげるための条件とみる傾きがある。学士になれば世間の評価も違い出世も早い。大学をこんな風に考えると大学は単に6, 3, 3, 4の学制のエスカレーター最後の段階に過ぎないということになる。これは大学の墮落以外のなにものでもない。いま社会は、たとえば産業界をみても、国際競争の激化と技術革新の波に対向するために、高度の技術を身につけた多数の大学卒業生を要求していることは事実であるが、その要求の中にひそむ真意は文字通り力を貯えた人材が欲しいということである。学士の名が無内容であり空洞化している大学卒業生を社会はけっして歓迎はしていない。

学校教育法では、大学を定義して次のように云っている。「大学は学術の中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする」すなわち大学は学問を研究し、学問の教育を行い、学問をおして人間形成と社会に貢献しうる能力を養うところである。

大学における教育と研究とは表裏一体不可分のものである。教育は常に深い研究の基盤の上にたって行なわれる。しかし研究はひとり教育のみの義務ではなく、大学では学生もまた研究せねばならない。教官は講義や実験の指導はするが、それは単に勉学の方法や勉学対象の糸口を教えるに過ぎず、教えられた方法に示唆をうけて糸口から引出せるあらゆるものは、学生自らの力で会得せねばならない。大学では学生は教育されるのではなく、自らは自らが教育する場所である。これを忠実に実践することによって学生には自然と独創性と批判力が養成される。これは諸君が今まで経験した教育では達せられなかった方法である。このような大学意識が身につけて初めて社会に出て社会的要請に答えられるし、やがては指導的役割りを果たすべき能力が養成される。

以上のような大学目的の線に添って、一般に大学での教育は具体的にこれを三つに分けて行っている。三つとは一般教育、専門基礎教育、専門教育である。しかし分けるといっても3者は密接に関連しあって全体としては統一されたものである。

一般教育は学生としてはもちろん、社会人となった場合、幅広い視野と、円満なものの考え方をもって協調してゆけるような個人の人格の形成を目的とした教育である。従って将来自分がどんな専門に進もうともそれにはかわりなく、た

えば自然科学系の大学であっても、人文科学も社会科学も同じように勉強する。これを雑多な知識の習得という意味に解称してはいけない。社会機構や人間関係がますます複雑化してゆく社会の中で、日常生起するもろもろの事象を誤りのない物指ではかり系統的に整理し、それらの中に含まれる本當の意味を把握する能力が必要である。技術者は専門にはいると、とかく他を顧みる余裕がなくなるといわれるが、技術者も技術者である前にまず人間であることが、この頃の社会ではとくに要請されるのである。

専門基礎教育は専門科目の基盤をしっかりと固めるための学問である。石碑はしっかりした土台石の上にたてないと倒れてしまう。この礎石の役割を果たすのが専門基礎教育である。工学系の学校であれば数学、物理、化学、基礎工学、農学系であれば、生物学、基礎農学、これらの外に語学が共通に必要なになる。細かくいうと、たとえば工業化学を勉強するには無機化学、有機化学、物理化学、分析化学などを初めに勉強しないと先には進めない。さもないと専門知識も浮草に等しい存在になる。この頃の科学や技術は文字通り日進月歩、昨日の技術は今日はもはや役にたたないとさえいわれる。この間に処して技術者は常に創意と工夫をもって事にあたらないと迫られてけほりをくう。産業界はまた経営上の理由から競って新しい事業の開発を行う。このためには技術者や指導者は高度の応用能力を具え、如何なる事態にも対処できる弾力性をもった人間であることが要求される。このような能力は基礎をしっかりと勉強して初めて可能になるのである。

次に専門教育である。これは社会に出てすぐ役にたつ学問である。専門教育についてこの頃の産業界の考え方に2通りある。第一は基礎学力重視のみかたで、基礎がしっかりし、これを活用する能力を十分にもってれば、卒業後は現場ですぐには役にたたなくても、努力如何で優秀な専門のエキスパートになれる。第二は基礎学力も大切だが、同時にあるいはそれ以上に現場ですぐ役に立つ人材が欲しいという要求である。二つの要求は事業の種類や大企業と中小企業などで異なるが、一時工学系大学について強調された基礎学力重視の声は依然として強いが、一部にはこの主張に若干ゆきすぎがあったきらいがあり、専門課目を軽視すべきでないという声も高まりつつあるようである。

以上が日本の大学における教育方針の大要であり、この学部ももちろんこの方針を踏襲しているわけであるが、ここでとくに学部の教育方針について紹介しておきたい。

この学部は繊維学部であって、その名が示す如く、繊維に関する万般の研究と教育を行うのが使命である。繊維産業は人間生活の三大要件である衣食住の中の衣の生産を目的とする産業で、わが国における規模は従業員1,000人以上の工場を対象にすると25~30%にあたるスケールをもち、さらに繊維産業には中小企業が非常に多いから、これをあわせると35~40%近いスケールをもつわが国としては最大の産業である。繊維学部はこのような産業を背景にして繊維をあらゆる角度

からアタックしてゆく、いわば専門大学として、世界でも稀な特徴をそなえた大学である。故に学部の実行は深く、この点間口の広い一般の学科大学や農科大学とは対照的であるけれども諸君に入学当初から理解しておいてもらいたいことは、学部は繊維学を狭く解称して視野の狭い教育を行っているのでは断じてないことである。もちろん糸を紡ぐ、織る、染めるというような実際の技術の習得に力を省くわけではないが、学校全体としての教育のあり方は、広く深い基礎的学問の土台に立脚して専門の学をおさめること、また繊維プロパーのみでなく、一般工科大学あるいは農科大学で課しているカリキュラムを大半とり入れ、卒業後も繊維以外の職場に他大学の卒業生と同様に進出できるような方法をとっている事実卒業生で繊維に関係しない職場に就職するものも非常に多い。このため前述の専門基礎教育を重視して弾力性のある人材の養成を主眼とする。現在学部で用意している専門授業科目が約350に対して専門基礎科目は約110に達しているのはこの理由による。また専門科目といっても繊維プロパーのものがそう多いわけではなく、このような授業は全体に対して約10〜15%程度に過ぎない。故に端的な表現をすれば繊維農学科は普通の農学部他の工学系学科は普通の工学部のカリキュラムとたいし変りはなく、これらの学部の中でとくに繊維の勉強に焦点をあわせているわけである。しかし繊維といっても前に云ったようにこれを狭く解釈しているわけではなく、高分子工業にたいしても学部はとくに強い関心をもっている。高分子とは多くの原子や原子団が集合してできている巨大分子の物質であって、これから作る、プラスチック、ゴム、接着剤、塗料などの工業は近代産業の一つの花形となっている。繊維もこのような高分子物の一種で、繊維産業と高分子工業は密接な親関係にある。高分子を研究するために学部では講座も設けてあるし、またこの為にとくに研究所をも構内にたてている。

次に本学部の一般教育について述べる。この学部では、一般、専門、基礎的教育の3者を互いにクサビ型にかみあわせて行っている。多くの一般科目と基礎科目は1年目と2年目に習得するが、科目たとえば外国語の如きは4年次まで授業を行うし、逆に専門科目も1年目におさめるものもある。一般教育では専任の先生は他の大学ではあり例をみない20人という多数の先生が配属されているが、専門学科の先生も一般教育の一部を、また逆に一般の先生も専門教育の一部をもち、全体として一般、基礎、専門の3種類の教育は融和した形をとっている。この頃多くの大学の一般教育は各学部のそれを1ヶ所に統合して行う方法を取り、信州大学も来年からこの方針を松本で実施する計画をたてているが、当学部は松本から遠隔の地にあり、かつ昭和24年の国会において当学

部に一般教養課程をおくことができるとの議決もあって、当分は従来通りの方法を踏襲する。これは新制大学における特徴ある教育形態として発展させてゆくべきではないか。

本学部では昨年から大学院修士課程を新設した。修士課程は大学卒よりもさらに高級な技術者と研究者を養成するコースで、新制大学卒業生が2年間在学する。この頃世間ではしばしば大学卒業生の実力低下を口にするが、これは戦後の63、3、4の学制が戦前の6、5、3、3よりも1年短かいこと、時代風潮の影響で学生の勉強意識の低下などに原因があると思われるが、これでは例えば技術系大学では国際競争の激化と技術革新に対処してゆけないので、各方面から大学院出身者を要求する声が大きくなり、事実大学院の入学者も年毎にふえてきている。諸君も都合のつく人は大学卒業後ぜひ大学院で勉強されることを切望したい。

以上で大学とこの学部についての紹介を終るが、最後に大学生としての諸君の身の処し方について意見を述べたい。

冒頭に云ったように、大学はなんといっても学問をする場所である。故に大学に在学する第一の目的は勉強にある。この明確な目的を見失ってはいけない。世間にはややもするとなんのために大学に人ってきたか疑いたくなるような学生もある。国家は諸君の学習のために莫大経費を投じているし社会もまた大学や大学生を特別な寛容な態度でみている。このことを思ってみなければならぬ。もっとも学習といっても単にこまぎれ的な知識をつめこむことが能ではなく、常に自分のものに同化した知識とするよう努力すべきである。

大学では諸君は同年輩の多数の友達と交際する。また学生会の中の各種の部やサークルの活動がある。これらの交遊や課外活動を通じて正規の授業では得られない、古い言葉ではあるが、身心の鍛練ができ、人生観や世界観がだんだん固ってゆく。このような学生同志の交遊にも諸君は関心をもってもらいたい。

私が諸君にとくにいいたいことは、大学の4年をただ漫然と送ってもらいたくないことだ。勉強もせず、運動もせず何を考えているのかわからない。単に押出されてゆくような学生生活を最後の学校である大学では送ってもらいたくない。もっともこういったからといって学生の身分を逸脱した過激な言動は厳に慎まなければならない。大学は教官、事務職員、学生の3つのユニットからなる1つの共同体である。3者が互いに理解し、融和して進んでこそ大学の任務は円満に遂行される。共同体の維持にはその中の各員が守るべき規則もあり、秩序もあり、またエチケットもある。

私はこれらの点を新入の時にあたって諸君が心に刻んで最後の学生生活をできるだけ有意義に送ってもらうよう切望したい。  
(1965.4.13)

## 信大教科書 自然科学書

工学書協会特約店  
株式会社 西沢書店  
上田原町 TEL ②0024



## オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

## オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増島芳美

## 大学院の入学式に際して

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

本学部の大学院修士課程は昨年昭和39年度に開設され、昨年はわずかに4名の入学者にすぎなかったが、本年は14名に増加し、本日それらの諸君を迎えて入学式を行なうことができたことは、諸君とともに同慶にたえないところである。

私はこれから大学院とはどのような所であるかについて政府の方針や私の見解をお話して、諸君が大学院の生活をできるだけ有意義に送ってもらう参考になりたいと思う。

文部省が設置している大学基準協会は大学院の目的を次のように規定している。

修士の学位を与える大学院の課程は学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って、精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を養うことを目的とする。

同協会はさらにこの修士課程の目的と趣旨を解説して次のようにいっている。

修士の学位を与える課程は学部の延長ではない。また別科や専攻科のように特別な技能または特別な事項に制限された学習をするものでもない。学部において一般並びに専門的の教養を積んだものが、広い視野にたつてさらに学識を深め、専門分野の理論と応用の研究能力を養うことを目的としている研究能力という、とくく理論的研究のための能力と考えられがちであるが、それは楯の半面であって、他の半面には、理論を実施に適用してゆくための能力が当然考えられるべきである。よって「理論と応用の研究能力を養う」とあるのはこの課程においては単に研究者、教授者たるべき能力の養成を目的とするばかりでなく、実社会において指導的役割を果たすために要する能力の養成を目的としているのである。

この解説に従うと、修士課程は学部の教育をうけたものが広い視野にたつて、さらに専門的理論と応用の研究能力を養うことと、あわせて実社会において指導的役割を果たすために必要な能力の養成を目的とする。

このような修士課程の趣旨は現在の新制大学の痛切な要求に合致していると思う。戦中戦後急速におしよせた技術革新の波によって世界の工業諸国家は競って大学のスケールを飛躍的に増大させた。昔は総合大学の中には加えられなかった。工学部や農学部のうち前者は今ではこの中の主流にさえなっている。しかしその反面大学には混乱と転落がさげられなかった。真理のための研究、よい意味での大学の象牙の塔は破壊された。今の「大学のありようは大学の二大任務である研究と教育」のうち、教育の面のみが異常に重視されて昔の大学を知っているものの眼にはアベレージレベルの技術者養成所になり下がった感がある。このような大学のアカデミズム復興に大学院制度はあずかって力があると思う。

この研究能力の養成について大学基準協会は次のような中

途はんばの言い方をしている。すなわち修士課程において要求される研究能力の程度については、先人の知見を基礎にして、これを発展させるに足る能力を培えば足りるのであって必ずしも独創的研究を行いうる程度に達していなくても差支えない。

この考え方は博士課程の趣旨すなわち博士課程は独創的研究によって従来の学術水準に新しい知見を加え、専攻分野に関し、研究を指導する能力を養うという趣旨とは対照的である。修士課程は全日制2ヶ年以上となっているから年限の関係上博士課程が要求するような独創的研究も研究の指導能力獲得も多少無理であるかも知れないが、私は修士課程においても、その位の気構えがあつて然るべく、中途はんばの規定を殊更にうたっているのはおかしいと思う。私は本学部の修士課程では博士課程に負けない意気込みで勉強してくれることを切に願う。

次に修士課程の趣旨の第二の条項、すなわち実社会において指導的役割を果たすために要する能力の養成という点は今の実社会の要求に合致している点であると思う。

新制大学の大学卒業生の学力不足については久しい間の実社会の声である。これは戦後の学制6, 3, 3, 4が昔の6, 5, 3, 3よりも1年間短かいこと、時代風潮の影響をうけて今の大学生の勉強意欲の低下その他に原因があると思われるが、理由はともかくとして、これでは激しい国際競争と技術革新の時世には間に合わず、大企業では最近修士課程の卒業生を採用するもの、あるいは社員を修士課程に留学させるものが多くなって来た。もちろん本人の意志次第によるが、今後実社会で指導的役割を果たすものは漸次大学院卒におきかえられてゆくであろう。

最近大学院の入学志願者は増加の一途を辿っている。日本学術会議の調査によると、国立大学のうち、旧帝大及び旧単科大学の修士課程入学者は昭和34年を100とすると、5年目の昭和39年には総数では166となり、農学部は149、工学部は272とふえている。昭和38年の入学総数は2,503人、このうち農学部は171人だが、工学部は総数の約半分1,078人が入学している。日本学術会議も現代の社会と現代の大学における大学院の重要性を検討し、この実質的な拡充強化の方策を強力に実施するよう昨年度に勧告した。

私は諸君が大学院の意義とその重要性をよく心に噛みしめて本学部の大学院をできるだけレベルの高いものに教官各位と力をあわせて育てあげ、学部にも学問の香り高いふんいきを注ぎこんでくれることを衷心切望してやまない。諸君は本学部の大学院のスタートの学生であるだけにこのことをいっそう強く要望したいのである。

(1965.4.13)

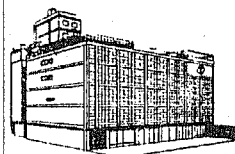
特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

### 浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20  
堤第一ビル四階  
東京(591) 0764・0765

弁理士 浜 香 三  
弁護士 中 猪 之 助  
千曲会員 福 島 鋼 治 郎



皆様の百貨店

上田・中央

⑧ ほとりや

## 亡 霊 の 学 園 迷 想

幽 明 境 異 人

宇宙時代と云う世の中に亡霊がモノを云うのはコッケイそのものであると嘲笑されるのがオチであるが、現世の移り変の激しい足音に冥土での安眠を破られてマカリ出た次第である。旧来の常識では白地の単衣をまとうて川傍柳の木の下に現われるのであるが、宇宙服と云う便利なものが出来て月世界まで行けると云われたので、それを着用してひとまづ懐かしい母校の空に出てみた。

明治43年に官立第3番目の高専として創立された母校、上田蚕糸専門学校は50年の歳月を経た現在、地方大学の雄を誇る信州大学の繊維学部として発展していた。そして校内、校舎、校庭の近代化された著しい変ぼうと施設・設備の充実と驚きの目をみはったのであるが、これからの学部の発展的な生き方即ち母校の将来のあり方については近く文部省の蚕糸教育一本化案の発表があると云うことなどで、部内改革の要に迫られているただならぬ様子であったのである。

母校の将来に関しては現世にある同窓各位の最も深い関心を寄せるところであろうと信ずるので、母校の上空に出てきた吾輩の耳に響いてきた論議を紹介したが吾輩の母校将来像を開陳してみたいと思うのである。ご笑覧あれ。

## 一般教育統合問題について

この問題については昨年の同窓会総会で「統合反対」の意が表明されていたことは当時の本紙上でご承知でしょう。学部では先頃漸く教員会議で「今回の信州大学一般教育統合には参加しない」と云うことが票決されたそうである。それは信大の統合案が一般的合理的統合とはいささか異質な点が見られるとか、学部における研究教育にとって現在よりベターとは考えられないと云うような見地からそのようになったようである。なおそれには文部省国語審議会委員西尾実氏の見解(4月20日信毎随想欄)と同様な意見もあったのかも知れない。

即ち同氏の見解は「どの大学でも一般教育については所定の成果をあげていない場合が多く、多くの学生は高校教育のくり返しに過ぎないと非難し、専攻部の教授は専攻の期間が不足すると云ってこぼし、一般教育担当者はどっちつかずの教育でやりにくいと云っている。中畧。この際信州大学は思いきって一般教育をそれぞれの学部に取り込んで、それぞれの学部の特色をもった一般教育を育成することが一般教育の不振を解消する現在における最も賢明な方策ではないかと思う」であった。

その理由として同氏は文学部における経験から「一般教育は専攻学科の基底であって、同じ文学部でさえ文学、史学あるいは哲学に進む者にそれぞれにその内容を異にしないでなければならない。ましてや医学、工学、農学部などはそれぞれに適切なその課程内容が用意されなくてはならない」と云う意味を述べ、さらに「一般教育の学生にもその教育の責任はそれぞれの学部が担わねばならない。一般教育部と云うような臨時的準備的な制度を設けることは教育の責任が学部と学生の間に徹底しない原因になる。それが今日の一般教育部を独立的に設けている前例が教育的に失敗している原因であり、証左である」とも云っている。

吾輩は同氏の云われた上述理由の実感もなければ、また失敗している前例もその所以も知るよしもないのであるが、その論旨に共鳴するので、今回学部のとった方策は賢明であったと思うのである。

統合不参加と云うことから学部が異端視され、今後学部運

営上行政面で俗に云うイザをまげられはしないかと云う小心的杞憂あるいはこの問題を表面的にしかみない世間の「非協力だ」と云う風評などにはこだわることなく、西尾氏の云うような学部の特色をもった一般教育の実現に向けて前進してほしいとのである。

## 学部体質改善問題について

さてそもそも母校は将来の発展をどの方向に考えているのであろうか、と云ふことは母校の先生方は学部をどのような性格内容の大学にすることを考えになっておられるのであろうか。われわれ母校を懐かしむ同窓生にとって、学部の自主的将来像はどう云ふものであるかと云うことは望郷の念以上の執著になっているのである。

今までに吾輩が開いていたところによると、学部の将来像は繊維学部と云う学問体系の不明確で、しかも狭い領域に立脚している学部では発展の範囲に限られるので、もっと広い領域に発展できる基礎の工学部になる。それには現在の繊維農学科を工学系の学科に転換させ、併せて繊維工業化学科、繊維機械学科、繊維化学工学科のそれぞれの「繊維」と云う頭字をとって純然たる工学部になると云うことであった。

確かに工学部の方が学問的には基礎的であり領域も広く、卒業生の就職範囲も拡がり、発展性が高まるように考えられるが、果してそのように受取ってよいだろうか。信大にはすでに長野に工学部があって工学系の主要学科は殆んど揃えて工学教育ならびに業界に先進し先導格の地位を占めているのである。

母校が工学部を目指すならば、結局長野と合体して上田分校となるか、あるいは第二工学部となるのがオチであろう。それに一面には分校だとか第二工学部だとかは一般社会的評価で一格下にみられるきらいがあり、栄光ある発展につながるものではなからう。

吾輩は格の上下を問うのでもなく、また郷愁にとらわれるのでもなく、母校の蚕糸繊維専門教育の殿堂としての存立の意義や永い歴史の上に築かれた特色とする權威と名声を破棄して時代に迎合し、近年急増されている拙速の工学部に同列することは決して母校の発展策ではないと信ずるのである。

文教政策が工業教育の増強に集中し、諸大学工学部の急速な拡充を他学部が羨望している際に母校には昨年4月大学院繊維学研究科修士課程(繊維農学、紡織工学、繊維工業化学の3専攻)が開設されたことが報ぜられた。吾輩は実は驚いたのである。と云うのはさきに書いたように、母校には一般工学部への転向ムードが支配的であると聞いていたからであった。しかし矢張母校が学界および業界に貢献してきた業績や教員各位が蚕糸、紡織、繊維化学などの權威であることが基本となつて、新制大学に初めて繊維学の大学院が置かれたのであろうし、そしてまた将来も比肩するものがないのが国に唯一の繊維学大学院であろうと推測されるのである。

このことからしても母校は将来にも繊維学を特色とする宿命を負っているものであり、そしてまた母校存立の意義もそこにあると理解されるのであって、母校はその特色をその体制と内容に益々顕現して行ってもらいたいものである。

母校が繊維学を特色とすることが理解されるならば、繊維学が農学、化学、工学等を基底としていることから、繊維学部は繊維農学科、繊維工学科等が並置されるのが当然であるにも拘らず母校の一部には繊維農学科の存在は学部発展の足手まといであるかの如く云い、その工学系学科への転向を強

要するようなムードがあることを聞くのであるが、それは全く理解に苦しむところであって、吾輩はむしろ農学、化学、工学等の学問分野が五輪マークの如く連環状にある場においてこそ応用専門学である繊維学の充実した進歩発展があるものと思うのである。

兎に角母校は繊維学を専攻する学徒ひいては繊維産業を振興する科学技術者の研究教育の場として一段と強くかつ高く体系付けられたものと理解されるのであって、母校には繊維学の旗印のもとにその体制確立と内容の整備充実に力強く進んでもらいたいと念願するものである。

#### 蚕糸教育一元化問題について

蚕糸業衰退の影響で上田、東京、京都の3繊維学部にある蚕糸関係学科の統合問題が2～3年前から検討されていたそうであったが、それぞれの学部内事情のためか、当事者の情勢認識が甘かったためか、あるいは波乱をおそれて安易な現状維持におったか知らないが、殆んど進展をみないまま沙汰止みになったそうである。

ところが今春の蚕糸学会の際、文部省の諮問機関である何とか云う委員会では新構想による一元的蚕糸教育制度の答申案ができたとか聞かされた。それは近來設けられた多くの工学系科にはみられないほどの専門講座10講座の大学科で、4講座に相当する付属研究施設を併置する蚕糸学科であって、関連学科との関係上何処かの農学部設置されるであろうとのことである。

いづれ学部には文部省からもっと具体性をもった案として伝達されるであろうから、従来から体質改善を企図してきた母校にとってはこの際その将来計画の一環として重大視せねばならないであろうし、殊に学科の主体性について低迷していた繊維農学科は愈々その座標決定を迫られたことであろうと思われるのである。

毎年の同窓会総会における小泉名誉会長の「学部の近況」報告で、母校が時代の進歩に応じて内外ともに拡充整備され近代化しつつ発展街道を進んでいる状況を聞いて、同窓生は誰しも非常に欣喜と誇りに浸ってきたと思うのであるが、今回の蚕糸教育一元化問題を迎えた現時点は母校にとって以前の学制改革に次ぐ歴史上の重大転機であるので、同窓生はあげて母校における教員各位に慎重な理解判断を望むとともにその改革方針の動向に対し絶大な注目をむけるべきであると思うのである。

予想される蚕糸学科の規模（凡そ3学科分の講座数）が一学部にも相当するような大きさであることはわが国の蚕糸学界および業界が国際的にもまた国家産業の上にも相当高いかつ根強い地位を占めている所以であって、これが実現の暁は全国唯一の蚕糸専攻の最高学府となるのであるから、既存大学の蚕糸関係学科は消滅することになろう、いよいよ以て母校の一大事であると痛感するのである。

しかし新蚕糸学科実現の過程においては3繊維学部との調整あるいは当該学科の吸収は必定であり、かつ既存施設の活用も当然と考えられるので、母校ならびに信州大学におかれては、古くはわが国蚕糸業発達の魁となり、今なおその中心的地位にある信州がこの蚕糸教育の殿堂にふさわしい地であることを想起され、この際蚕糸業の近代的再編成のための科学技術者教育センターとなる新蚕糸学科（あるいは蚕糸学部）が母校に実現するよう積極的な意図を示し、定評ある繊維学部の面目を一段と高揚してほしいことは同窓の多数が切望して止まないところであると信ずるのである。

#### 吾輩の母校将来像

懐かしの学園である母校の将来に寄せる同窓各位の要望はどうであらうか。

今までに述べてきた問題は何れもその将来を決定する重大性をもっているだけに従来も母校においては慎重に慎重を重ねて検討してきたであろうし、現在では一段と窮迫した情勢の中で学部将来計画委員会が（信濃毎日新聞4月30日）学部の主体的方向を打出すべく検討を進めているようであるが、当面の社会的要求即ち目先の好況面に眩惑されることなく、適正な判断により母校が永遠に繁榮する将来像を確立することを願うものである。

吾輩はすでに学問の場を離れ、また蚕糸業、繊維工業などの動向に通じているものでもないから、母校のあり方に対する確たる論点もないのであるが、母校が今や重大な転機にあることを知るに及んで、吾輩なりに画いた母校の将来像を披露してみたいと思うのである。

#### I、新蚕糸学科を繊維学部へ誘致する

さきに聞き及んだ新蚕糸学科を母校に誘致し、現在の繊維農学科を改革して蚕糸学科の基礎的かつ関連的学科としての生産化学科とし、繊維学部としての充実した体制を整える。吾輩の構想する両科の内容をそれぞれの講座名をあげて略示すれば次のようである。

##### 蚕 糸 学 科

栽桑学第1（植物生理生態学）

栽桑学第2（桑樹学）

育蚕学第1（応用昆虫学or応用動物学）

育蚕学第2

蚕種学（遺伝種学）

蚕桑病理学

製 糸 学

絹 糸 学

蚕糸機械学（生産管理学or工場管理学）

蚕糸経済学（経営経済学）

##### 付属研究（所）施設

栽 桑 部

育 蚕 部

経 営 部（調査部）

統 計 部（総務部）

##### 生 産 化 学 科

土壤肥科学

生 産 化 学

農 業 化 学

用 水 化 学

繊 維 化 学

#### II、繊維学部を2学部へ再編成する

文理学部が一般教育統合を契機にして理学部と人文学部の2学部へ発展改組するのにならって、繊維学部を繊維工学部と蚕糸学部の2学部へ再編成するのである。この案の学科構成は次のように考える。

##### 繊 維 工 学 部

現在の紡織工学科外3学科に高分子工学科、繊維応用電気学科を新設する。

##### 蚕 糸 学 部

蚕糸農学科、蚕糸化学科の2学科とし、さきの蚕糸学科とは別の講座編成を考える。

以上の2案は母校の将来を築くための積極的意図に基く当面の計画案とも云えるものであって、吾輩の母校将来像の基底をなすものである。その造形操作には今後いくつかの方法が考えられ、また本年長野県議会で採択された東信地方の学園都市開発計画の進展に伴って、母校の別な位置付けも考えられ、吾輩の迷想は尽きないのであるが、一応この辺で終りとす。

## 斎藤実先生逝く

斎藤先生には去る5月4日早朝、脳溢血を再発され意識不明のまま昏睡状態を続け、親族、友人、師弟らに見守られながら、ついに5月7日午前4時60才を一期として、永劫の旅路につかれた。倒れてから臨終まで、日夜つき添った一同の祈念も空しく消えたのである。せめてもう4～5年は生きてほしい否半年でもよい。一と月でも……そして刻々と秒読みに入り、もう一度だけお別れの対面を願ったのであるが、衆生との扉は容赦なく閉ざれてしまった。その運命に片鱗のさからいもなく静かに安らかに眠られた先生の顔容はまさに成仏そのものであった。

かくて翌8日先生の御体は、新緑萌ゆる太郎山の麓においてだびに付され、第2の故郷である上田を永眠の地とされたのである。

告別式は9日緑ヶ丘の自宅において執行、悲報を聞いて参じた者300名、遠くは長野、山梨、東京より急駕を馳せた。おえつして伏す子弟達の惜別の情は痛ましく、快晴のさつき空も灰色につつまれたのである。

告別式終了後緑ヶ丘会館にて法事法要と共に特に斎藤実先生を偲ぶ集いが催された。多数の知己、子弟がこれに参加、生前の斎藤先生の思い出やエピソードが披露された。先づ旧友であり先輩である長老佐藤春太郎先生によって、あらため



て斎藤先生の人格が称えられ哀悼の辞がゆっくりにかみしめられた。そして次の追悼句が捧げられた。

香華をへだててあうや  
きみとわれ

次いで斎藤先生が上田の当学に赴任されて最初に教わったという石井さん（石井眼科院長）は、小まめに動いておられた往時の先生の面影をなつかしました。戸田氏（農1）は先生の教えは今後も永久に生きている。道に迷う時は必ず導いてくれるという。また、東京より在京生一同を代表して馳せた向井氏（農2）ははげしい都会生活の中で、時折先生の教えがよみがえるという。良寛を尊敬されておられた先生が口ずさまれた句「盗人に取り残されし窓の月」思えば先生こそこの心境に達しておられたのである。酒の飲み方を教わったという竹内氏（農3）織農の末っ子として先生に最も甘え、心配をかけたという中沢氏（農5）はご恩返しができなくて何よりも残念だという。この他在職当時の僚友、山口教授、関、町田助教授、他から、次々と名残りつきなく思い

出と追悼の言葉が述べられたその戒名、教宣実参居士、はまさに言行一致の、人間として至難の道を全うされた先生の徳性、を如実にひれきたものに他ならない。

（農2回田中記）

## 斎藤実先生を悼む

町 田 博

斎藤先生ご他界の意外に早かったことに哀悼と惜寥の念の殊に深いものがある。思いおこせば先生は在職中病気で休まれることなく頑健そのもので、しかも温厚誠実、文字通り精勤研学の日を続けておられたある日、全く突然に脳溢血におそわれご不自由の身にいられたのは10年前であった。その時は発作が軽かったので半身不自由に止まったが、10年の歳月を経てご家族はもとより誰もがもはやその心配はないと思っていたところ去る4月の2回目の発作は遂に先生に死をもたらせてしまった。同系の病根をもつ私は惜別の情とともにかすかにも恐怖にも似た感じをおぼえたのである。

20年の長きに亘ってご交誼を受け、温厚誠実、信義に厚くして慈愛深いご生活態度に私は大きな感化を受けたものである。

先生との最も懐かしい思い出は倉沢先生の着想から、蚕糸とは別の天然繊維の学問的開拓とその技術開発に傾倒し、遂に昭和19年繊維農学科の創設に成功してから昭和26年最後（第5回）の卒業生を送るまでの歳月である。従来の専門とは別の新しい学科の編成勉強、農場の設営、卒業生の就職開拓やらを佐藤春太郎先生を科長にいただいて倉沢先生とともに東奔西走した時代である。大学昇格の時には私どもの主張する繊維農学、繊維工学、繊維化学の3科案が票決で破れて繊維農学科は廃科となり、佐藤、倉沢両先生は元のご専門に復帰し、吉田、川端両先生は他に転出され、先生は養蚕学科に新設の繊維農学講座の担当となり、私は付属農物専任となり、先生と私はともども養蚕とは別の途を巡った間柄である。

たまたま数年前の学部改新で、私どもが当時構想した学科編成が実現した時、「先見の明」があったことを語り誇った

ものだった。繊維農学科卒業生には殊に思い出深い大室農場の改善整備された状況を先生に一度お見せしようと田中君と話し合っていたのであるが、はたせなかったのが残念でならない。それにご長男（東北大学教養部助手）のほか成人されたお二人のお子さん方の孫をお抱きになれるご幸福を近年に控えてご他界されたことがいかにも惜まれてならない。

ご冥福を祈る次第である。

もと宮城県蚕業試験場長  
野口活也著 いま宮城県蚕業研修館講師  
（蚕13回卒）

## 養蚕の新技術

養蚕の指導者、養蚕農家、養蚕婦人向

農山漁村文化協会

東京都港区赤坂青山北町4の74

¥250 ㊦40

## 斎藤実先生を偲ぶ

この5月4日に、斎藤先生は10年前の脳溢血が再発、意識不明のまま5月7日の明け方4時にご逝去された。我々は今更のように、先生の教えが偉大にして、我々の胸の奥深くに突きささっていることを思い起すのである。我々が先生の感化を直接に受け始めたのは15~20年前からである。その頃の我々は、軍国主義に則った教育を頭のとっぺんから足のつま先まで一ぱいに詰め込まれ、絶対と信じていたものが、終戦とともにうたかたのように消え失せ、激みに浮遊する木の葉のようにただ生きていた時期であった。こう言う時代に我々が先生に巡りあうことが出来たことは我々にとって大きな幸福であったと、先生に永別した今になって、痛烈に感ぜられるのである。

我々が生きて行く目標を失ったとき、先生はその目標を我

々に教室であるいはまた団場で、言行一致で示して下さい。それは人生を誠実に生きると言うことであった。我々が信じて来たものに裏切られたとき、先生の厳しいまでの誠実さにあって、我々は奇異の感にうたれた。我々は先生に接し、教えを受けて行くに従って、先生の誠実さが普遍の真であることに気がついた。と言うより無意識のうちに先生から我々はそれを吸収して、今日の我々が在るような気がするのである。それから我々は先生からもっとも愛されていた先生の教え子の1人であったと自負を持たせてくれた我々の慈父であった我々は今我々の人生の指標である偉大な恩師であり慈父であった人と幽明境を異してしまった。嗚呼悲しい哉。

(農4柳沢記)

## さ ろ ん

みんなの千曲会にするために

——結婚・就職欄を——

斎藤 義 臣 (歪32)

量が増加して、質が複雑化してきた千曲会は、毎年に中枢神経がマヒしてきて中央本部の意志が末端に完全にとどくことが困難となってきた。

それとは逆に昔は「おい」と呼べば「おお」と答える間柄であり、1人の困窮者にも皆の温かい手が隅なくさしのべられたものである。

今日においては、全会員の住所すらつかめない状態であり、誰が何処で何んな苦しみを味わっているかも知れないことがあろう。

また齢が増加してくると、停年制があつて、第二の社会活動のチャンスがさすことにも苦しんでいる人があり、貧富の別なく、娘の嫁入りや息子の嫁取りには多大の心労を負わされてくるものである。

このことはあなたがち年寄の特権でなくい人にも就職や結婚の悩みはつきまとうものである。「人生は悩める浮草」のようなものだからであろう。

この万人共通の問題を如何に解決してゆくかということに千曲会の存在意義を見出してはどうであろうか。私はここに千曲会報掲載の具体例を提案する。

### 1. 就職求人欄

某年某月某日生、卒業科(某年)経験歴、扶養家族、就職希望方向、特技特典希望条件、卒業科(某年)現在の仕事求人希望条件。

### 2. 結 婚 欄

某年某月某日生、学歴、経験、希望条件(どうゆう方面に進む男、どうゆう性

格の女など)

千曲会報をほうとくする考えだと思ふ人は別として、これによって求職求人が少しでもうまくゆき、娘や息子の結婚がうまく決ったら、千曲会の恩恵は偉大なものである。もはや、そういう時期に到ったといつても特にお叱りは受けないであろうと、心ひそかに肩をすくめる次第である。

## 関西織農会の集い

去る4月3日近江八景の名所、瀬田の唐橋を眺望する料亭「瀬田」において旧織農会を開催した。卒業後初めての会でもあり、各人の変わりぶりに一同眼を丸くしたり、肩をたたきあったり…。この日学会に出席のため西下していた田中茂光氏(学部教官)が特別参加され、母校や恩師達の近況を知らせてくれた。集った諸氏の顔ぶれは次のようであった。

松井寛氏(農1)＝浜口染工KK染色課長、修己寮長としてその名をはせた昔の面影はなく、きわめて紳士、昨年英国に一年留学された由。何を勉強されたかはノーコメントでした。

岡田純氏(農2)＝蝶理KK織物課長サンショウは小粒でもきっぷのよさは相変わらず、未だに野球大会ではピッチャーをかってでるというはりきり課長。

大森武氏(農2)＝広島県農事試験場因の島支場主任、瀬戸内海の因の島からはるばる列席した義理堅い人柄、粒々18年島にたてこもって、ついに除虫菊の優良品種を生み出した功績が高く買われている。

中村弘氏(農2)＝日本農薬KK、主任研究員、兵庫大学から転職、研究畑のホープである。現在学位論文を提出中、夫婦間にどうやっても子供ができないので、研究テーマは植物における不稔現象

の求明、動物は失格とか…。

宮沢健(農2)＝通産省神戸織物検査所係長、相変らず人のよさと人気者、みんなにすべてにでも公私共に多忙、奥さんを横浜の実家に置いて目下単身赴任を



楽しみ中。

光岡克一氏(農2)＝蝶理KK貿易課長、外国出張(パキスタン、インド、中共)2年間に大分豪遊したらしく、23貫の巨体は貫録を増した。奥さんは泣いているらしい…。

芝間晴三郎氏(農3)＝中学教諭、実直さにほれこまれて、地元の娘さんと結婚、楽しく平和な生活を送っておられる山。

中原円氏(農5)＝大阪市立工芸高等学校教諭、信州の武石村出身といえど身ぶるいする程の山奥だが、今はすっかり繁都住い。研究肌の先生であるが、めとりし妻は京美人とか、なかなかぬけぬなし…。

岡野靖氏(農2)＝農林省滋賀統計事務所係長、花の生涯とまではいかないが彦根城下にわび住い。毎日大津までびわ湖のふちを行きつ戻りつ、ごく平凡な生涯を送っているサラリーマン。

以上の他止むを得ぬ所用のため欠席された吉田鎮雄先生、井元曉氏、岡崎修氏一之瀬賢太郎氏からよろしく伝言があった。(岡野記)



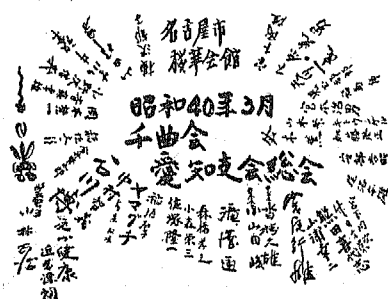
## 支 会 だ よ り

## 千曲会愛知支会総会開催

支会長に小山田峻氏を選出  
愛知支部総会開催日を11月  
第2日曜日に決定

昭和39年度千曲会愛知支部総会は、昭和40年3月14日午前11時から名古屋城内桜華会館において本会から石川先生を迎え、40名の会員が参集して開催された。

この日は名古屋地方特有の伊吹おろしの寒風が吹きさす天候であったが、過去の総会に比べ、参集の多いのはもちろんのこと学部7～11回の卒業生が多かったことは、支会活動が若い層に期待する今日においては有意義なことであった。



総会は、杏掛支会長のあいさつのあと昨年の本会総会に出席された、稲垣、小山田両氏から総会報告があったあと、杏掛支会長から、「昨年の名簿発行のときには愛知支会は実に170部を消化している、これは他の支会に比して普及率は第1位であり、仕事の面において当支会員は実業界が多い関係上名簿を十分活用する必要がある、またそうすることによって仕事もやり易い事になる結果だと思えます。これは千曲会の組織を十分に利用しているものであり、千曲会の存在は必要不可欠のものになっている。しかも今日出席者も40名の多きに達しているなかで特に若い人の多いのに、私自身非常に心強く思っている次第です。この機会に若い人の千曲会に対する活発な御意見をお願いし、併而支会長他幹事の若返りを行い、時代に即した運営を行いたい」との発言があり、出席者名簿から支会長指名により発言が求められた。「もっと会合の回数をふやしてほしい」「通りいっぺんの千曲会報の発行だけでなく、もっと他の方法で本会と会員との間の連絡をとる方法はないのか」、「千曲会報の内容をもっと多彩のものにする事はできないのか」、「支会の総会を有意義のものにするにはどうしても参集者を多くする必要がある。そのためには総会の開催日をあらかじめきめておいたかどうか」

など活発な意見がだされ、その各々につ

いて論議され、きめられたことは、次の2点である。

①新支会長に小山田峻氏(化3)が選出された。

②今後、愛知支会の総会日は毎年11月の第2日曜日とする。

また、石川先生からは、本会の活動状況と教養部統合の問題についてくわしい御説明があったあと、記念撮影をし、懇親会に入った。

懇親会は、出席者全員の自己紹介のあと、お互に盃を乾しながら上田生活の思い出、仕事についての状況交換が和かのうちにわれ、寄せ書きのあと、小山田支会長の音頭で、千曲会、同愛知支会の万才を三唱して散会した。

当日の出席者(順不同)

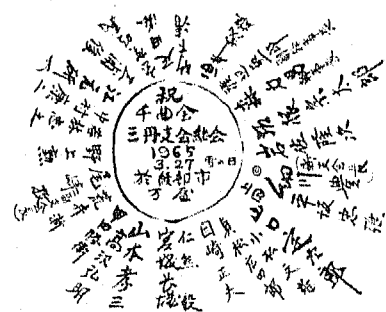
宮本治男(化8)、尾沼宏雄(学化9)、木藤茂、荒井肇、横沢郁子(学化11)、宮下周次(学化8)、藤森敏雄(紡24)、山田邦男(学化8)、小野沢信義(学化6)、小野沢信義(学化6)、天川一良(学紡11)、小森栄三(糸37)、中村智義(紡28)、福島席(紡17)、宮尾行雄(糸22)、竹内方栄(紡9)、倉島紀富(紡22)、鈴木薫(学糸7)、森橋孝三(学化12)、佐塚隆一(学織12)、坪内孝夫(学農10)、安部吉昭(学化10)、山本繁(学糸9)、加藤隆正(紡21)、山浦幸二(紡29)、滝沢通(紡16)、金井賢太郎(学紡1)、山口竜之助(学化11)、稲垣文一郎(糸23)、岡本栄一(糸15)、近藤謙朗(蚕32)、小山田峻(化3)、稲垣厚(化6)、下原光男(学紡4)、熊田喜代志(化2)、杏掛久雄(蚕19)、児玉郁郎(蚕33前)、宮下民雄(学蚕5)、柴田豊(学蚕9)、斎藤幸雄(学蚕5)、小林正治(学蚕3)

(学蚕3小林記)

## 千曲会三丹支会総会開催

当支会総会は去る3月27日綾部市の繁華街として知られる本町通り、万屋旅館にて開催いたしました。

3月も終りに近づき、そろそろ花の便りも聞かれる頃だというのに、約10℃程の積雪を見、一度来た春も冬へ逆もどりのではないかと思われるような寒い日でしたが、予定の午後6時には、出席予定者25名全員が集まりました。母校からは千曲会理事長の山口定次郎先生が御多忙中にも拘らず、遠路はるばるお越し下さいましたが、生憎の雪の御出迎えにささか戸惑った御様子でしたが、それでも降込々と云って大いに縁起がよいんだと大変な御機嫌でした。



細川副支会長から、支会の経過、状況報告に続いて、高沢事務局長から会計報告があり、新年度の役員を選出して最後に山口先生から母校の近況や学部機構改革の問題について詳細な説明がありましたが、特に、現在問題となっている教養課程統合の件については、皆さんが関心をもっているだけに、かなり突込んだ質問も出て大変有意義な総会でした。終っ

謹啓 会員の皆様には、毎日御元氣にて御活躍のことと、拝察御慶び申し上げます。さて、私事先般開催の千曲会愛知支会総会の結果、会長の席を退き後任として小山田峻氏を御願ひすることになりました。省みますれば土屋勲氏より会長のバトンを受け以来8年余の長期間、この間母校50周年記念事業、母校火災復興資金の募金等の達成を始めとし、本会との連絡並びに会員皆様相互の連絡を密にし、当支会の声価を落すことなく今日をあり得ますことは、これひとえに会員皆様のご理解ある御支援は勿論のこと乍ら、小山田峻、熊田喜代志、倉島紀富、岡本栄一、稲垣文一郎、松田得治、鈴木竹男各氏等を始めとする各地区幹事諸氏の御協力と事務局担当石井耕一氏の献身的御努力の賜によるものと茲に深く感謝申し上げる次第であります。何卒、今後も後任者小山田峻氏に対し私に御寄

せ頂きました御支援同様御協力を賜わりますて、より若き、より新しき新機軸の下に当支会が一段と発展することを祈念し退任の御挨拶と致します。杏掛久雄(蚕19回)春日井市上田栄町2615 鍾淵蚕糸河田蚕種製造所

謹啓 私儀、今回千曲会愛知支会長に就任いたすことになり、事務全般滞りなく引継ぎました。素より若手の者にて、その器ではありませんが一意支会発展のため努力いたす所存でございます。つきましては皆様の御協力なくしては支会の運営も意に任せないことと存じますので、前任者同様の御支援と御鞭撻を賜わりますようひとえに御願ひ申し上げます。とりあえず御挨拶をかね御願ひ申し上げます。 敬具 小山田峻(化3)事務局名古屋市中北区光音寺町90 東洋整絨株式会社内

(電話095551)

千曲会愛知支会会員各位殿



語り合いする楽しさ想う  
(凸版は同日出席者の寄せ書)

## 本 会 記 事

## 上田繊維科学振興会

## 研究助成委員会開催

昭和40年度財団法人上田繊維科学振興会研究助成委員会は5月4日開催、出席者は柳沢延房理事長、副理事長北条舒正研究助成委員会委員山口定次郎、田口亮平、呉祐吉、会田源作の各教授で助成金交付申請書審議の結果次の研究課題を選定し研究を奨励することになった。

1. 植物がんの研究  
大阪府立生野高等学校  
西沢 良一 (蚕 21)
2. 家蚕の卵子形成過程における細胞構造要素の微細構造変化  
福島大学工学部  
松崎 守夫 (織農 5)
3. 織物構造の整數論的研究  
石川県小松工業高等学校  
藤島 一千 (紡 12)
4. ポリアミッド系繊維に対するビニールモノマーの紫外線グラフト重合  
神戸大学工業化学科  
石橋 博 (学化 3)
5. モアレ法によるPoissonの測定  
信州大学繊維学部繊維機械学科  
篠原 昭 (学糸 2)
6. 高分子化合物における機械的変性に関する研究  
信州大学繊維学部紡織工学科  
近藤 慶之

## 上田繊維科学振興会役員会開催

5月27日正午より上田繊維科学振興会監事会を開催し、昭和39年度歳入歳出決算、基本財産の保管状況について監査あり、基本財産は八十二銀行上田支店に安全保管してあり、39年度決算については妥当と認め2時終了、午後3時より千曲会館で理事会が開催された。議題は①昭和40年度研究助成事業について、5月4日開催の研究委員会の選定した研究課題及び研究者の経過報告あり助成について承認、②昭和39年度歳入歳出決算について竹内監事より監査報告があり承認、③昭和40年度学会講演会開催について本年度は化学学科新設以来第25周年となるので特別講演会開催予定であるから前年度繰越の1部をこの事業費にあて増額すること、④評議員会を6月中に開催することを決定した。

## 本 会 日 誌

- 4月4日 静岡県支会総会開催、本部から田口理事、会田理事出席。  
○4月10日 西山市三(蚕9)前京都大学教授は3月同大学を定年退官されたが

この度米国ウイソコンシン大学客員教授として招聘され4月10日日航機でホノルル経由赴任の途についた。宛先は

Dr Ichizo Nishiyama  
Department of Agronomy  
Wisconsin  
Madison Wisconsin 53706  
U. S. A.

- 4月12日 河田栄一(蚕18)長野県蚕業試験場上田支場長就任挨拶来会。  
○4月16日 岩田正人(蚕32)長野県上小地方事務所蚕糸課主幹就任挨拶来会。  
○4月17日 福島支会総会開催、本部から遠藤理事出席。  
○4月17日 神奈川支会総会開催、本部から山口理事長、白井美明理事出席。  
○4月19日 出野正雄(蚕23)京都府伏見中小企業労働相談所長は倉沢美徳顧問と同席来会。  
○4月28日 会報編集委員会開催、5月号は休刊、千曲会報は年10回発行する。6月号は増頁すること。  
○5月9日 元信州大学教授斎藤実先生は長年病氣療養中の処で5月7日ご逝去9日上田市緑が丘2460の自宅で告別式、本会より山口理事長外多ぜい弔問焼香された。  
○5月12日 大正6年上田蚕専製糸科4回卒業の70寿会員小湊潔、吉沢武夫、青木永次郎、伊藤勢危、今井夷、横田三平都築賢吉、須田国之助、小山久一の大先輩は打ち揃ってかくしゃく前日の別所温泉の同級生の集いのあと母校本会を訪れ新しい時代にそって立派に変わった学部をなつかしげに一巡し針塚先生胸像前で記念をカメラに収めた。  
○5月19日 勤務部委員会開催、4月の会員異動報告状況も順調である、台帳に記載を正確にすること、その他を協議。

## 母 校 ニ ュ ー ス

## 学 内 人 事

- 間室規助手講師に昇任 4月1日付名古屋大学工学部助手間室規助手は信州大学講師に昇任、繊維学部化学工学科単位操作第2講座担当。  
○中沢賢氏助手就任 東北大学大学院修士課程本春修了の中沢賢氏は4月1日付信州大学助手に昇任、繊維応用力学講座研究室に在席。  
○江原勝夫氏助手に昇任 東北大学大学院修士課程本春修了の江原勝夫氏は4月1日付信州大学繊維学部共通講座応用力学講座研究室に在席。  
○鈴木恵助教授転任 信州大学繊維学部紡織工学科鈴木恵助教授は4月15日付京都工芸繊維大学助教授に転任。  
○佐納良樹講師助教授に昇任 大阪府立

大学工学部佐納良樹講師は5月1日付信州大学助教授に昇任、繊維学部繊維化学工学科単位操作第1講座研究室担当。

## 教職員組合執行部役員決定

学部教職員組合総会は4月24日上田温泉にて開催、次の議事を審議した。(1)昭和39年度収支決算について、(2)昭和40年度収支予算について、(3)役員改選については選挙の結果委員長に一志淑夫、副委員長に石川博の両先生が決定した。なお新役員の事務分担は次のとおり決定した。総務部長池田正孝、部員に加藤泰正、四方昭吾、押金健吾、小林忠雄、文化部長に武田晃、部員倉島留次郎、原生部長に松沢秀二、部員に小山定、婦人部長に吉池恵美子、会計部長に佐藤雅子の各氏にお願いすることになった。

## 改新期成同盟会理事会開催

5月6日母校繊維学部会議室において改新期成同盟会理事会が開催され次の諸題について審議した。①報告事項(イ)改新事業の一般経過報告について、(ロ)昭和39年度の収支決算報告について、②協議事項(イ)募金計画について、(ロ)改新資金使用計画について、(ハ)学生ホール建設計画について、(ニ)その他。

## 関助教授(蚕23)学術功労賞授与さる

去る5月3日憲法記念日をとり、昭和40年度長野県産業、自治等に関する功労者並びに団体の知事表彰が長野市の自治会館でおこなわれた。席上本学部関博夫助教授は唯一人の学術功労者として栄ある知事賞が授与された。今回受賞の運びとなったのは倍数性糸の育成並びに品種改良の功績に対してであり、同助教授の長年におわたる研究成果が実ったものとして深く敬意を表し、なおこの研究が斯界のために役立つことを祈ってやまない。

## 新入学生歓迎レクリエーション

5月11日新入学生歓迎レクリエーションは、参加同行者350名、5台のロマンスカーで校門午前8時出発、高標1,600mの熔岩台地の大草原霧ヶ峰で交歓会が盛大に行われた。日本アルプス、御岳、中央アルプス、南アルプス、富士山、八ッ岳の連峯と諏訪盆地の全ぼうがさつき晴れに映え、さわやかな清気を満喫して帰路白樺湖で少憩全員午後6時帰学した。

## 紡織工学科研究室新築に決定

紡織工学科の新築については昭和40年度において682坪 鉄筋三階建の規模で新築することに決定した。建設場所は昭和39年度竣工した講義室に隣接し旧紡織研究実習工場敷地跡で、工事着年は8月、40年度に竣工の予定である。

## 昭和40年度

## 入学許可学生氏名

## 繊維農学科 28名

氏名	県	出身校
西条 康雄	新潟	高田高校
山田 明	富山	富山北部
武田 正男	長野	上田
横山 好範	〃	〃
宮島 宇智	〃	〃
矢島 正晴	〃	〃
柳原 穰	〃	〃
原田 孝	〃	〃
花岡 孝雄	〃	〃
柏原悦二郎	〃	〃
森山 茂	須坂	西
塚田 明	〃	〃
遠藤 敏夫	〃	〃
竹前 道夫	〃	〃
寺島 恒雄	長野	〃
中村 全夫	〃	〃
堤 和敏	屋代	〃
中沢 文子	岩村田	〃
角田 啓	岐阜	大垣北
福島 良和	〃	〃
尾崎 忠正	愛知	西尾
千種 貞雄	〃	〃
河口 豊	三重	松阪
千原 洋	大阪	大阪市立東淀工業
馬淵 津三	兵庫	西脇
竹中 伸也	和歌山	田辺
立岡 康則	岡山	岡山工業
下村 茂	鹿児島	加世田

## 紡織工学科 45名

氏名	県	出身校
諸岡 英雄	千葉	佐原高校
矢沢金太郎	東京	島山工業
吉田 哲朗	富山	魚津
田中 清五	福井	藤島
藤 良明	長野	長野
八町 敏男	〃	〃
柏野 和夫	〃	〃
和田 長夫	〃	〃
関 喜代志	〃	〃
今井 信昭	〃	〃
飯島収二郎	〃	〃
青柳 吉宏	〃	〃
前田雄一郎	〃	〃
梅原 武士	〃	〃
大日向嗣昌	〃	〃
小沢 文弘	〃	〃
金子 康浩	〃	〃
沢井 保智	〃	〃

山本 功	静岡	掛川西
鈴木 正徳	愛知	豊橋東
道下 明夫	〃	〃
吉田 陸雄	〃	〃
関谷 和敬	〃	〃
新美 富幸	〃	〃
山本 敏郎	〃	〃
菱川 信也	〃	〃
黒田 静治	〃	〃
中江 正	滋賀	八日市
沢田 和弘	京都	洛東
藤原 平和	大阪	三国丘
富永 和雄	〃	〃
久保 賢三	〃	〃
中西 月王	〃	〃
豊田 隆夫	〃	〃
杉山 雅夫	〃	〃
大井 道夫	兵庫	神戸
亀田 泰彦	〃	〃
吉田 亮	〃	〃
杭田 徹	岡山	岡山朝日
浮田 明正	〃	〃
尾崎 寛	愛媛	新居浜西
西川 浩	高知	高知学芸
大木 茂弘	長崎	佐世保南
西谷 勇	大分	大分工業
亀之園和明	鹿島	指宿

## 繊維工業化学科 41名

氏名	県	出身校
森 輝雄	北海道	名寄高校
渡辺 幸雄	東京	東工大付属工業
岡村 忠	〃	〃
松下 俊彦	〃	〃
今関 貞夫	〃	〃
榎内 明彦	〃	〃
横山 良文	〃	〃
清水 和夫	〃	〃
清水 健一	〃	〃
鎌原 敦子	〃	〃
柏原 久雄	〃	〃
仲村 安善	〃	〃
飯田 紀子	〃	〃
上原 義則	〃	〃
山上 憲之	〃	〃
田中 広久	〃	〃
野々村英雄	岐阜	岐阜工業
宮本 弘作	静岡	沼津工業
小杉 敏巳	〃	〃
林 弘道	〃	〃
鈴木 英雄	愛知	時習館
横手 信皓	〃	〃
浅井 隆	〃	〃

河合 恵	〃	〃
高山 昌也	三重	伊勢
世良 好浩	大阪	今宮
大谷 寛治	〃	〃
阪田 一彦	〃	〃
吉野 正之	〃	〃
中村 憲雄	〃	〃
今西 晃久	〃	〃
宮林 恒隆	〃	〃
中嶋 宏治	〃	〃
足立 久	兵庫	柏原
岩橋 弘実	和歌山	桐蔭
安田 公義	岡山	新見
中曾 偉人	〃	〃
釜谷 良三	〃	〃
井上 克彦	〃	〃
石井 清志	〃	〃
細木 公平	〃	〃

## 繊維機械学科 45名

氏名	県	出身校
山本 正治	北海道	小樽高校
阿部 新一	福島	福島
岡野 忠志	埼玉	春日部
大坪 宣次	東京	駒場
宮川 喜寿	新潟	直江津
滝沢 勝明	〃	〃
小松 達雄	石川	金沢市立工業
藤田 昭次	〃	〃
水本 彰	福井	若狭
津田 昌三	〃	〃
斎藤 直樹	長野	上田
三井 利宣	〃	〃
竹内 健	〃	〃
西沢 六男	〃	〃
山浦 富雄	〃	〃
荒井 良一	〃	〃
荻原 秀一	〃	〃
生島 利彦	〃	〃
北沢 誠	〃	〃
赤堀 義知	〃	〃
山城 修二	〃	〃
返町 曉夫	〃	〃
武内 克巳	〃	〃
小出 修一	〃	〃
稲田 堅朗	〃	〃
内川 修	〃	〃
新田 達夫	〃	〃
曾我 浩典	〃	〃
中村 敏彦	〃	〃
加藤 俊剛	〃	〃
前野 釣吾	〃	〃

小島 寛	〃	〃
角谷 直樹	〃	〃
河原 洋	〃	〃
大岡 行彦	〃	〃
大須賀勝之	〃	〃
中村 峻	三重	伊勢
森下 昭夫	京都	西舞鶴
井上 周	大阪	夕陽丘
小島 久典	〃	〃
藤田 克巳	兵庫	尼崎
田上 研二	〃	〃
中野 誠二	〃	〃
青井美佐男	岡山	岡山操山
古江敬一郎	〃	〃

## 繊維化学工学科 33名

氏名	県	出身校
崔 尚彦	千葉	成東
宮崎 照勝	東京	深川
宮野 安定	新潟	高田
杉本 敏宏	〃	〃
古川 昌彦	石川	小松
塚田 茂男	長野	上田
瀬在 敏行	〃	〃
清水 明夫	〃	〃
前島 秀夫	〃	〃
宮沢 勝吉	〃	〃
片桐 直希	〃	〃
竹城 正二	〃	〃
藤本 育子	〃	〃
竹内 伸夫	〃	〃
近藤 憲夫	〃	〃
重松 俊男	〃	〃
丸田 節雄	〃	〃
野村 利弘	〃	〃
近藤 淳	〃	〃
清水 秀美	〃	〃
滝沢 達三	〃	〃
柴田 憲治	岐阜	中津
清水 純雄	静岡	浜松西
内山 久	〃	〃
中島 達也	愛知	半田
政田 勝利	京都	京都市立堀
村山 信彦	大阪	大阪学芸大学附属
木曾 浩	〃	〃
市川 弘	〃	〃
宮田 清巳	兵庫	尼崎
貝本 年正	奈良	奈良
東 義昭	〃	〃
鈴木 勝輔	岡山	岡山朝日

## 会 員 動 静

宮城 博 蚕 13 更 埴 蚕種協同組合千曲社(更埴市  
桜堂)(住)前のとおり  
清水 伝 蚕 23 北海道 呉羽紡織KK北海道出張所長  
(札幌市2条西19丁目)  
宮島 至 蚕 23 上 小 長野県上田染谷丘高等学校  
(上田市材木町)  
竜野 敦 学蚕 8 兵 庫 日産農林工業KK長浜工場  
(兵庫県津名郡淡路町岩屋75  
一2)  
那須野博人 糸 30 東 京 東琴堂楽器店代表取締役(東京  
都渋谷区神宮前6丁目19番  
14)  
相野田文雄 糸 31 福 島 片倉工業KK平工場長(福島  
県平市三倉八)  
中村甲子男 糸 32 埼 玉 昭栄製糸KK本庄工場(埼玉  
県本庄市2241)  
武井 顯三 糸 35 福 島 鐘淵蚕糸KK相馬工場工務課  
長(福島県相馬市北町51)  
島崎 昭典 糸 36 東 京 農林省蚕糸試験場(東京都杉  
並区高円2)八王子市清川町  
17一7  
山崎製襪信 学糸 2 埼 玉 昭栄製糸KK本庄工場(本庄  
市2241)  
山岸 照武 学糸 6 東 京 昭栄製糸KK蚕糸部工務課  
(千代田区駿河台3丁目1の  
2)(住)浦和市常盤町7の2)  
疋田 滋 学糸 9 三 丹 神栄生糸KK研究所(綾部市

西町3丁目)  
浜 香三 紡 3 東 京 浜特許事務所(東京都港区芝  
新橋1の20(住)東京都武蔵  
野市緑町2丁目3番7の302)  
北野 三郎 紡 14 愛 知 村田機械KK大山工場(大山  
市大字橋爪字中島2(住)岡  
崎市明大寺町東長峰24の66  
佐藤 佳良 紡 16 東 京 関東信越国税局(東京都千代  
田区内幸町1の2)(住)前  
橋市高田町53  
近藤 伸一 紡 29 近 畿 東洋レーヨンKK技術サービ  
ス部第3課(大阪市北区中之島  
3の50三井ビル)茨木市倍賀15  
0の21東レ茨木アパート221  
佐藤 崇 紡 20 岐 阜 東洋紡織KK岐阜工場(岐阜  
市宇佐海草366の5)  
羽賀 正美 学紡 6 上 小 松田産業KK上田支店(上田  
市常入)  
細萱 英穂 学化 2 更 埴 長野県信用組合坂城支店(埴  
科郡坂城町)  
六川三恵子 学化 8 東 京 (住)東京都渋谷区神宮前2  
丁目2番39外苑住宅222  
山本 実 学化 9 千 葉 大日本インキ化学工業KK有  
機薬品部(千葉市原市五井埋  
立地)(住)市原市辰見台西  
3の12 大日本インキ喜清室  
308  
浦山昭吉郎 化 6 東 京 防衛庁 陸上幕僚監部 補給課  
(東京都港区赤坂松町3)

## 繊維工業化学科創立25周年記念事業について

同窓諸兄には益々御壮健に御活躍のこととお喜び申し上げます。昭和15年4月繊維業界の切なる要望により繊維化学科が全国の大学、専門学校にさきがけて創立されてから本年は25周年になります。更に昨年より大学院も設置され今日卒業生は714名に達し全国各地において会社の経営、研究に、あるいは、中堅技術者等として活躍して居り上田の化学の名を全国に知らしめるに至りましたことは真に御同慶にたえません。斯の如く発展して参りましたのは、卒業生各位の平常の努力もさることながら、創立以来我々を御指導下さいました諸先生の御尽力も忘れてはならないと思います。この記念すべき年に当り創立以来の諸先生に感謝の意を表すると共に同窓相集まり力を一にして更に将来の大飛躍を誓うと共に母校教室の発展のために微力をつくすことも意義のあることと存じます。このため有志相計り次の如き事業を計画致しましたしかし乍ら千曲会同窓会では既に50周年事業も行なってきた

したので、ここでは徒らに華美にながれず質素の中にも前記目的を達成しうるささやかな事業を計画致しました。御多端の折でございますが、何卒応分の御協力を賜わり度くお願い申し上げます。 早々

昭和40年4月1日

繊維工業化学科創立25周年記念事業会  
発起人代表 第1回 北 条 舒 正

1. 記念事業内容 A 繊維工業化学科関係者への記念品贈呈  
B 創立25周年記念講演会、C 繊維工業化学科沿革史出版  
(資料しゅう集、保有)、D 祝宴・上田、東京、大阪、  
E 母校教室へ記念研究設備書籍の寄贈。
2. 募金計画 A 目標額1,000,000円、B 1口1,000円として  
1口以上、C 記念事業期日昭和40年10月D、送金先長野  
県上田市常入500 信州大学繊維学部繊維工業化学科 北条  
舒正宛。


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金  
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

## 編 集 室 よ り

3月から4月にかけて数支会で総会が開かれ、本部から理事出席して盛大であった。会員の親睦は連絡をとること、集って語り合いの場をもつことから初まる。最近同級会のと揃って学園を訪れる組があり、年配組の郷愁の心境も楽しいものの一つ。

大学の自治は厳然たるものである。一面学園の発展に名案をお聞かせ下さることは望ましいことである。充実之れを大という。昨今はのんびりしてはおられないが、心豊かにご健勝ご活躍をお祈りします。

編集委員 小林 尚一、竹田 寛、石川 博  
武井 隆三、松沢 秀二、金井 清、一之瀬匡興  
小笠原真次、篠原 房江、白井 要範